

リーダーたちの本棚

Leaders as Reader

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局 広告特集

L 手厚いケアで実現 「生涯リゾート生活」

【率いる】 Leading

ロングライフホールディングは、国内164カ所ですべて老人ホームやケアセンターなどを運営する他、在宅介護サービス事業、メンバー制リゾート事業、福祉用具のレンタル事業、フード事業などを展開。ケアサービスを通じた国際貢献を目指し、中国、韓国、インドネシアなどにも活動を広げる。率いる遠藤正一さんは、創業期の苦労をこう振り返る。

「1986年に訪問入浴サービスの事業を開始。最初の数年は利用者が増えず、警備員や露天商などの副業で食いつなぎました。忘れもしない、立ち食いうどん店を開いていた時のこと。目の前で小学生がおいしいおいしいと笑顔で食べてくれるのを見て、『福祉もうどん店と同じサービスなんだ』とハッと気がつきました。その時まで、福祉の仕事に就いてどこか、『困っている人を助けてあげる』という気持ちがあった。傲慢だったと反省しました」

ほどなく訪問入浴に加え在宅介護事業を開始。90年に有料老人ホーム「ロングライフ長居公園1号館」を開業した。

「家庭でできることには限界があると感じました。週に2度在宅介護にうかがっていた高齢者は、自分でトイレに行けず、部屋はひどい汚れと臭気でした。息子さんにケアを訴えて、『そのために来てもらってるやないか』と言われる始末。老人ホームを作らなければと思えました。自立度が高い時は在宅でいい。身体介護が必要になったらホームへ。その方がケアが行き届いてご本人が快適だし、ご家族やケアスタッフの心身の負担が少なくて済みます」

高齢者の自立を促すサービスを

「生涯リゾート生活」をコンセプトとするロングライフの老人ホームは、デザインや自然との共生を重視。質の高い身体ケア、医療サポート、食事などを徹底している。

「私は、当社のような民間が立ち上ってこそ、日本の高齢者福祉に明るい未来が開けると考えています。国の補助金で成り立っている社会福祉事業は、『とにかく事故さえ起こさなければいい』という発想になりがちです。その結果、利用者が『自分で何かしたい』という欲求を奪ってしまふ。それに対して当社が目指すのは、高齢者の自立を促すサービスです。お客様が積み上げてこられた文化的背景を尊重し、ご家族と楽しむひとときや、芸術、旅行、スポーツなどに親しむ活動を奨励しています。認知症の方や車いすの方を海外旅行にお連れすることもあります。周りには心配しますが、行くと皆さんみるみる元気になります」

今秋には函館と湯布院、来年には石垣島と箱根に会員制リゾートがオープンする。「その土地でしか味わえない料理やアクティビティ、自然を最大限に生かした空間、ロングライフ流のホスピタリティを提供していきます」

最後に遠藤さんは、「介護職は3K(きつい、汚い、給料が悪い)」「親を老人ホームに入れるのは非情」「老人ホームに入ったら人生は終わり」といったネガティブな考え方を覆すことが自らの使命、と力強く語ってくれた。

■朝日新聞社メディアビジネス局ウェブサイトでは、遠藤正一さんが語るリーダー論を紹介しています。
<http://adv.asahi.com>
朝日新聞 広告 検索



遠藤 正一 さん

1955年大阪府生まれ。77年近畿大学法学部卒。79年監獄福祉事業団入団。86年関西福祉事業社(現・ロングライフホールディング)創業。2002年ジャスコ市場上場。08年ロングライフホールディングに社名変更。著書に『おもひの人生ここにあり!』(彰文社)など。

遠藤正一さんのおすすめ本棚

『新約聖書 新共同訳 詩編つき』(日本聖書協会)
カトリック教会とプロテスタント諸教会の聖書学者70人以上の英知を集結。現代人にも理解しやすく、典拠や礼拝で用いられる格調高い訳文。詩編つき。

『夜もひるのように輝く』(聖隷歴史資料館)長谷川保一著
社会福祉法人・聖隷福祉事業団の創業者で、生涯を社会福祉、教育、医療、政治に投じたキリスト教徒、長谷川保一が、その半生を小説体で綴る。

『新版 上司が「鬼」とならねば部下は動かさず』(プレジデント社)桑谷和巳著
「いい人」でいたいと思ったら部下も自分も伸びない! 社員の意識をどう高めるか。上司がなすべきことは? 強い上司、強い部下をつくる。31の黄金律。

『夢をかかなるゾウ』(飛鳥新社)水野敬也著
ダメなサラリーマンと関西弁を話すゾウの姿をした神様・ガネーシャが繰り広げる、笑って、泣いて、ためになる、実用エンターテインメント小説。

『坂の上の雲』全8巻(文春文庫)司馬遼太郎著
松山出身の歌人・正岡子規と軍人の秋山好古・真之兄弟の3人を軸に、近代国家を目指す人々の奮闘と、日露戦争の勝利に至るまでを描いた大河小説。

R 聖書を読み、生きる目的を見つけた

【読む】 Reading

ホーム介護事業、在宅介護事業、リゾート事業、福祉用具事業などを展開するロングライフホールディング。近年は、中国、韓国、インドネシアなど海外にもサービスを広げている。同社を一代で築き上げた遠藤正一さんが紹介するのは、「介護はサービスである」という信念を支えた本たちだ。

20歳でクリスチャンに 聖書の実践を師に見る

高校3年の夏休み、友人と紀伊半島一周の自転車旅行をしました。私は2歳の時に父親を胃がんで亡くし、母が女手一つで4人の子を育ててくれました。そんな母に旅費の無心などできません。当然、貧乏旅行。道中の和歌山県本町

で、「重荷を負って疲れた者は休んで来たれ」という言葉を掲げた教会を見つけ、牧師さんに頼んで泊めてもらいました。この時牧師さんから、「信じる信じないはともかく、聖書を読みなさい。世界の文化文明は聖書が礎なのだ」と言われ、聖書が読めるようになった。

大学に入るも、家庭教師のアルバイトを始めました。高校時代からボランティア活動をしていたこともあって、家庭教師の派遣会社から、サポートを必要とする子の担当に指名されました。家庭教師を続けていくうち、「この子はなぜこんなに苦勞をしなければならないんだ」と悩むようになり、悩みはやがて自分に向かい、「俺は何のために生まれてきたのだらう」と思うようになり、宗教と中本の教会の思い出がよみがえり、教会に行ったら何とかなるのではないかと、近所の教会に通い始めました。聖書を読み、牧師の説教を聞くうちに、人生の目的が見えてきました。

内してきて、「神様が創ってくださったものだよ」と、自分のことは誇らず神様を誇りました。「なんてすごい人や、もつこの人のことを知りたいたい、そばで社会福祉について学びたい」と思いました。同業団に入り、7年間おやじの秘書を務めました。おやじは聖書の内容を日々実践していました。無私・無所有の人で、結婚病棟だった小屋に住み、掃除もペンキ塗りも花壇の手入れも自分でしていました。「おやじに倣いたい。ただまねをするのではなく、おやじのように今の時代に必要とされていることを見つけ、実践したい」と思いました。そんな思いで、介護サービスを立ち上げました。

若い人に知ってほしい 礼儀、規律、歴史の大切さ

日本の高齢者介護の現場を見渡すと、頂点に医師、その下に看護師、次いでヘルパー、クリーンのスタッフというピラミッドが今なお厳然とあります。それに対して当社が理想とするのは、リーダーが周囲に尽くす「サーバント・リーダーシップ」です。つまり、頂点にお客様がいて、次に現場のスタッフ、各現場のリーダー、いちばん下に私がいる。その思想と相いれないようにして多くの共感点があったのが「上司が「鬼」とならねば部下は動かさず」です。



三笠書房 千代田区飯田橋3-3-1 03-3261-1111 <http://www.mikasashobo.co.jp>

三笠書房BOOKSTOREで立ち読みができます!! <http://www.mikasabooks.jp>

運のいい女の法則 4万部突破!! ISBN978-4-8379-2640-5

ゼロから1を生む 思考法 6万部突破!! ISBN978-4-8379-2641-2

1週間で腹を凹ます体幹力トレーニング 7.5万部突破!! 600円+税

食べても食べても太らない法 5万部突破!! ISBN978-4-8379-8416-0